

公益社団法人日本馬術連盟 獣医規程

制定 平成 20 年 4 月 1 日

改正 平成 23 年 7 月 29 日

改正 平成 24 年 3 月 2 日

改正 平成 24 年 4 月 1 日

改正 平成 25 年 4 月 25 日

改正 平成 26 年 4 月 1 日

改正 平成 27 年 4 月 1 日

改正 平成 28 年 4 月 1 日

改正 平成 29 年 4 月 1 日

改正 平成 29 年 10 月 12 日

第 I 章 総則

第 II 章 獣医師

第 III 章 馬のウェルフェアに対する責任

第 IV 章 日馬連競技会における獣医関連業務

第 V 章 ホースインスペクション

第 VI 章 アンチ・ドーピングおよび治療規制

第 VII 章 競技期間中の馬の治療

第 VIII 章 競技場の施設整備および管理

第 I 章 総則

(通則)

第 1001 条 本規程は、公益社団法人日本馬術連盟（以下、日馬連）が主催または公認する競技会および国民体育大会馬術競技会（以下、日馬連競技会）における参加馬の健康とウェルフェアの維持管理を目的に、「FEI 獣医規程」および「FEI 馬アンチ・ドーピングおよび治療規制規程」、「日馬連馬アンチ・ドーピングおよび治療規制に関する規程（以下、J-EADCMR）」等の関連諸規程に従って、日馬連および日馬連競技会における獣医関連事項について定める。

2. 本規程に定められていない事態が発生した場合、獣医師団長は、競技場審判団長および上訴委員長（上訴委員長不在の場合は、大会委員長、技術代表および審判団長。以下同じ。）と協議し、本規程や日馬連が定める関連諸規程の精神に則って、対応策を決定するものとする。ただし、その決定は当該競技会期間中に限り有効である。

(日馬連獣医委員会)

第 1002 条 日馬連獣医委員会（以下、獣医委員会）は、前条の目的を達成するために、本規程の定めにより日馬連および日馬連競技会における獣医関連業務の施行運営を統括する。

2. この規程を改廃する必要があるときは、獣医委員会の発議により理事会の承認を得て行うものとする。

(馬の伝染病の予防)

第 1003 条 獣医委員会は、日馬連競技会における伝染病の予防およびまん延防止に資するため、日馬連登録馬が順守すべき「検査・予防接種実施要領」を定める。

第Ⅱ章 獣医師

(獣医師)

第 1004 条 獣医師とは、日本国の獣医師法（以下、獣医師法）に基づく獣医師資格を有する者をいう。

2. 日馬連の獣医関連業務に従事する獣医師の責務は以下のとおりとする。

- (1) 日馬連の競技会関連規程（「日馬連獣医規程」および J-EADCMR 等）を理解し、順守すること
- (2) 日馬連競技会において、馬のウェルフェアの尊重と競技の公正に関して、獣医師の立場で、主催者または審判団に対して必要な助言を行うこと
- (3) 日馬連獣医規程第 1005 条第 1 項（1）および（2）の獣医師が別々に指名されていない競技会においては、それぞれの職務を兼務すること
- (4) 臨場した日馬連競技会における獣医事基本情報（および特記事項）を所定の様式で報告する。日馬連主催競技会においては 1 週間以内 1 週間以内に事務局宛てに提出すること。公認競技会においては各種目の公認競技会規程の規定に則って提出すること。

3. 獣医師法に基づく獣医師資格を持たない者であっても FEI オフィシャル獣医師または FEI 公認治療獣医師としての有資格者にあつては日馬連競技会の獣医業務に従事することができる。ただし、獣医師法に基づく獣医師資格を取得しない限り治療行為はできない。

(オフィシャル獣医師)

第 1005 条 オフィシャル獣医師は、日馬連競技会に臨場し、競技会獣医管理業務を担当する獣医師であつて、以下のとおり区分する。

- (1) 獣医師団：J-EADCMR の適用、馬の参加適性やウェルフェアを監視、確保する責務を負う。

団長：獣医師団の代表 1 名を団長とする。

ホールディングボックス獣医師：ホースインスペクション（以下、インスペクション）の際、ホールディングボックスにおいて確認検査を行う。救護獣医師がこれを兼務することができる。

検体獣医師：薬物検査が行われる競技において、一連の検体採取業務を実施する。獣医師団が兼務することができる。

- (2) 救護獣医師：競技馬の診断および治療に対応する。ホールディングボックスにおけるホールディングボックス獣医師の業務にあたることができる。

2. 日馬連主催競技会および薬物検査を実施する競技会、または競技会規程に別に定めがある場合は、獣医師団と救護獣医師の兼務は認めない。

3. オフィシャル獣医師は、日馬連競技会において、他の委員を兼務することはできない。

4. オフィシャル獣医師は、その職務する日馬連競技会において競技者または監督・コーチ等チームの一員となることはできない。

(獣医師団)

第 1006 条 獣医師団の職務は以下の通りとする。

- (1) 入厩馬の「馬の検査・注射・薬浴・投薬証明手帳」(以下、健康手帳) および日馬連乗馬登録証(以下、乗馬登録証)(FEI パスポートを含む)を査閲し、個体識別および健康確認を行う。
- (2) 競技場における馬の防疫・衛生環境を監視し、主催者に助言・勧告する。
- (3) 競技参加馬の参加適性について必要に応じて専門的見解を示す。
- (4) インспекションが行われる競技においては、インспекション団の一員として専門的見解を示す。
- (5) 薬物検査が行われる競技においては、一連の検体採取業務を実施する。
- (6) ブーツ検査が行われる競技においては、検査に立ち会い、必要に応じてスチュワードおよび審判団長に助言する。

2. 獣医師団は、原則として 1 名は最初の馬が入厩する以前に競技場に臨場していなければならない。ただし、主催者または競技会場の厩舎管理担当者および救護獣医師と緊密な連絡が取れる態勢を維持すればこの限りではない。

3. 獣医師団長は、馬のウェルフェアに対する主催者の責任が果たされていないことを確認した場合または対応が不十分な場合、主催者に対し改善を勧告する。また、それらの事項について上訴委員長に報告する。

4. 獣医師団長は、伝染病や感染症の発生に際して、主催者、競技場管理者、競技場を管轄する家畜保健衛生所等の指示により防疫のための手段を講じなければならない。

(救護獣医師)

第 1007 条 救護獣医師の職務は以下の通りとする。

- (1) 競技馬の病気・外傷および事故に対応して診断し、獣医師団長に報告する。
- (2) 必要に応じて競技馬の治療(保健治療を含む)にあたる。
- (3) 診療実績(診断のみの場合を含む)は獣医師団長に書面で報告しなければならない。

2. 救護獣医師は、最初の馬が入厩する以前に競技場に臨場していなければならない。

(チーム獣医師および個人委託獣医師)

第 1008 条 日馬連競技会に参加するチームが帯同し、そのチームの管理馬の診療を担当する獣医師をチーム獣医師という。チームの構成員であるか否かに係わらず、馬管理責任者が個人的に委託して帯同し、その管理馬の治療を担当する獣医師を個人委託獣医師という。

2. チーム獣医師および個人委託獣医師は、競技場に入場するときは、獣医師団長に入場届を提出し、許可を受けなければならない。

3. チーム獣医師および個人委託獣医師は、当該競技会のオフィシャル獣医師を含むいかなる役職にも従事することはできない。

4. 担当する馬がドーピング検査対象となったときは、当該馬の管理責任者の要請を受けてオ

フィシアル獣医師の監督下で検体採取作業を実施することができる。ただし、採取した検体の処理はオフィシアル獣医師が行う。

第三章 馬のウェルフェアに対する責任

（主催者）

第 1009 条 日馬連競技会的主催者または組織委員会（以下、主催者）は、獣医師団および救護獣医師として最小限各 1 名をおかなければならない。ただし、公認競技会については獣医師団と救護獣医師を兼任することができる。

2. 主催者は、公益社団法人日本装蹄協定会認定装蹄師 1 名を緊急対応のための公設装蹄師としておかなければならない。

3. 主催者は、競技場への入厩時において、当該競技会場に入厩するすべての馬に関して第 1012 条に定める入厩検査を実施しなければならない。なお、入厩検査の実務は獣医師団、または獣医師団長が指名した者がこれにあたる。

4. 主催者は、競技場の獣医設備と厩舎施設について、第八章に定める事項を順守しなければならない。

（馬管理責任者）

第 1010 条 馬管理責任者は、原則としてその競技会での当該馬の騎乗者（競技者）とする。

2. 馬管理責任者は、競技出場への準備段階や馬の調教段階、競技終了後のいずれの時点においても馬のウェルフェアを優先し、適正な獣医療、馬のコンディション、競技参加適性、種々の事務手続き等について、責任を負わなければならない。

3. チーム競技では、前項の責任は馬管理責任者とチーム監督が負うものとする。

4. 馬管理責任者は、別途定める日馬連検査・予防接種実施要領を順守し、健康手帳、乗馬登録証および FEI パスポートの記載事項が適正かつ有効であることに責任を持たなければならない。

5. 馬管理責任者は、競技会期間中に馬が家畜伝染病予防法に基づく法定伝染病および監視伝染病（以下、伝染病）を疑わせる異常や徴候を示したときは、可及的速やかに獣医師団長に報告しなければならない。

6. 薬物検査あるいは獣医検査の受検を命じられた馬管理責任者は、獣医師団長の許可が得られるまで当該馬を獣医師団の監視下に置かなければならない。

第四章 日馬連競技会における獣医関連業務

（乗馬登録証等の査閲）

第 1011 条 主催者は、日馬連競技会または国内で開催される FEI 競技会に参加する馬管理責任者から、入厩時に健康手帳と乗馬登録証を収集し、獣医師団の査閲に委ねなければならない。

FEI 競技会においては、それらの書類に加え、FEI パスポートを査収しなければならない。

2. 個体識別作業において被検馬が競技参加を申し込んだ馬と異なることが判明したとき、または個体識別作業を拒否したときは、獣医師団または獣医師団長代理人は、競技場審判団長および上訴委員長と協議したうえで、入厩を拒否、または退厩させることができる。

3. 主催者は、提出された乗馬登録証等の諸証明書を当該競技会の期間中保管しなければならない。

(入厩検査)

第1012条 入厩検査は下記について実施する。

- (1) 個体識別：乗馬登録証（FEI/パスポートを含む）を査閲して、入厩馬の個体識別を行い、乗馬登録証と実馬の一致を確認する。
 - (2) 予防接種履歴確認：健康手帳（FEI/パスポートを含む）に基づき、入厩馬が別に定める検査・予防接種実施要領に定める予防接種または検査の要件を満たしていることを確認する。
 - (3) 獣医検査：到着時の馬の健康状態について、可能な限り臨床症状の有無を確認するとともに、主催者や競技場管理者が別途獣医検査の実施の必要性を認めた場合は、その検査の実施に協力する。
2. 国民体育大会（以下、国体）においては、前項の定めに係わらず、開催県は日馬連との協議により、別途、予防接種および馬事衛生の要項を策定することができる。
3. 入厩検査で日馬連検査・予防接種実施要領に規定された要件を満たしていないことが判明したときは、入厩を拒否または退厩させることができる。

(獣医検査)

第1013条 獣医師団は、馬の健康状態を確認するために、日馬連競技会の期間中に随時、獣医検査を行うことができる。

2. 前項の獣医検査は次のとおりとする。
- (1) 乗馬登録証等の諸証明書特徴記載事項に基づく馬の個体識別
 - (2) 日馬連が定めた検査・予防接種実施要領に基づく予防接種歴等の確認
 - (3) 乗馬登録証等の諸証明書の記載内容の正確性の確認
 - (4) 伝染病に罹患している馬との接触機会の有無や、伝染病に罹患していないことの確認
 - (5) その他、馬の一般的な健康状態の確認
3. 獣医検査により以下の事実が判明したときは、獣医師団長の勧告に基づき、競技場審判団長は、当該馬を失権または失格とする。
- (1) 競技参加適性がないと判断されたとき
 - (2) 妊娠4ヵ月以降の牝馬または仔馬を伴った牝馬。その事実が競技会後7ヵ月以内に判明した場合は、この規定に該当するすべての競技に関して失格となる。
 - (3) 気管切開術あるいは切神術を施した馬
 - (4) 個体識別の結果、入厩馬が登録馬と異なることが判明したとき

第V章 ホースインスペクション

(インスペクションの実施)

第1014条 主催者は、実施要項に則り、馬の競技参加適性を確認するために競技開始前24時

間以内にインスペクションを実施する。

（インスペクション団）

第1015条 インスペクション団は、競技場審判団と獣医師団の各団長を含む代表者3名以上で構成し、その団長は競技場審判団長が務める。

（インスペクションの環境）

第1016条 日馬連競技会の主催者は観衆から適切な距離においてインスペクション会場を設置し、安全で速やかな被検馬の入退場経路を確保しなければならない。

2. 主催者は、インスペクションの実施に必要な外貌検査、歩様検査、ホールディング検査を実施するために必要な場所を準備しなければならない。

（歩様検査を実施する路面）

第1017条 歩様検査を実施する路面は、インスペクション実施中に終始一定の状態を維持していなければならない。

2. 歩様検査を実施する路面は、アスファルト路面、硬い基盤層を露出させた競技場路面、表面の小石を排除した路面など、原則として平坦硬固かつ滑りにくい路面でなければならない。路面が過度に硬い場合は、適度な量の砂を敷くことが望ましい。

3. 歩様検査を実施する路面の長さは、原則として直線50mとする。

（ホールディングボックス）

第1018条 ホールディングボックスは、インスペクション会場に隣接した別の場所に設置しなければならない。

2. ホールディングボックスは、インスペクション歩様検査場と同じ状態の路面でなければならない。

（日馬連競技会におけるインスペクションの実施時期と回数）

第1019条 日馬連競技会におけるインスペクションの実施時期と回数は、次のとおりとする。

- (1) 競技会実施要項に実施回数と実施時期が明記されたインスペクションは、その競技会実施要項の定めに従って実施する。
- (2) 競技会実施要項に実施回数と実施時期が明記されていないインスペクションは、原則としてインスペクション対象競技の開始前24時間以内に、インスペクション団の合議により時間を定めて実施する。
- (3) 日馬連競技会の期間中、獣医師団長および競技場審判団長が必要と判断したときは、すべての馬を対象に随時、インスペクションを実施することができる。

（インスペクションの手順）

第1020条 インスペクションは原則として以下の手順に従って実施する。

(1) 馬管理責任者またはその代理人は、馬を連行し、受検時にも誘導しなければならない。

- (2) 被検馬は、ハミ付きの頭絡を装着されていなければならない。ただしエンデュランス競技においては無口頭絡の使用が認められる。
- (3) 鞭の使用は、必要に応じて120cm以下のものが認められる。ただしエンデュランス競技においては鞭の使用は認められない。
- (4) インспекション団の指示により担当スチュワードが被検馬を所定の検査場所に誘導する。
- (5) インспекション団の獣医師が被検馬の個体識別と外傷などを視診によって検査する。この時点では、関節の屈曲検査・輪線上での歩様検査・触診などの診断法や検査を実施することはできない。
- (6) 誘導者は馬の左側に位置し、引き綱を緩めた状態で馬に短い距離の常歩をさせた後、歩様検査路面の折り返し地点近くまで馬に速歩をさせ、そこで常歩に落として折り返し地点を右回りで回転した後、再び引き綱を緩めた状態で、開始点まで速歩をさせる。
- (7) インспекション団、特にその一員である獣医師は、歩様検査路面の長軸の延長線上から被検馬の歩様を観察する。
- (8) インспекション団の一員である獣医師の見解を聴取した後、インспекション団は合格、不合格、ホールディングのいずれかを決定する。
- (9) 競技参加適性が疑わしい場合、インспекション団は当該馬をホールディングボックスに送ることが望ましい。
- (10) 総合馬術競技における獣医検査を含むインспекションは、FEIの規程に準じて実施する。エンデュランス競技におけるインспекションについては、補則「エンデュランス競技におけるインспекション」に記述する。

(ホールディングボックスでの検査)

第1021条 ホールディングボックスでの検査は、次のとおり実施する。

- (1) ホールディングボックスにおいて確認検査を行う獣医師(以下、ホールディングボックス獣医師)には、救護獣医師がこれにあたることことができる。
- (2) ホールディングボックス獣医師は、視診や触診の他、打診や検蹄器の使用、可動範囲を確認するための下肢部関節の他動的屈曲検査を実施することができるが、関節の疼痛を誘発して診断する強制屈曲検査を行ってはならない。
- (3) ホールディングボックス獣医師は、引き馬での直線運動の他、輪線上での常歩や速歩による歩様検査を行うことができる。
- (4) インспекション団は、ホールディングボックスに当該馬のチーム獣医師または競技者の個人委託獣医師の立ち会いを認め、それらの獣医師が立ち会った場合、ホールディングボックス獣医師は、それらの獣医師の意見を参考にして確認検査を実施する。
- (5) ホールディングボックス獣医師は、検査の結果、当該馬に恒常的な跛行を認めたとき、あるいは競技参加適性がないと判断したときは、当該馬管理責任者に対して、その場にて参加の取りやめを助言することができる。
- (6) ホールディングボックス獣医師は、ホールディングボックスにおける確認検査の結果を速やかにインспекション団に報告しなければならない。

(再インスペクション)

第1022条 インスペクション団は、ホールディングボックスでの確認検査が終了した馬について、下記の手順で再インスペクションを行う。

- (1) 再インスペクションは、ホールディングボックス獣医師が当該被検馬の検査結果をインスペクション団に報告した後、原則として当該インスペクションの最終被検馬の検査終了後に実施する。
- (2) 前項の定めに係わらず、インスペクション団は、インスペクション中の適当な時期に再インスペクションを実施することができる。この場合、ホールディングボックスにおける確認検査と再インスペクションとの間には適度な時間をとることが望ましい。
- (3) 上記の再インスペクションにおいても引き続き参加適性が疑わしい場合には、インスペクション団の判断に基づき、モーニング再インスペクションとして改めて競技当日の朝（最初の競技前）に実施することができる。
- (4) インスペクションに合格した馬は、薬物検査の対象とすることが望ましい。

(合否の判定)

第1023条 インスペクションの合否は、競技種目や気候条件に応じた客観的な馬の競技参加適性の有無を公正に判断して決定しなければならない。

2. 馬の競技参加適性の判定に際して、インスペクション団の判定が可否同数のときは、最終決定は競技場審判団長が下す。
3. インスペクションの判定結果は、インスペクション団長からスチュワードに伝えられ、スチュワードが速やかに宣告する。

(インスペクションに関する不服申立て)

第1024条 インスペクション団の決定は最終的なものであり、不服の申立てをすることはできない。

第Ⅵ章 アンチ・ドーピングおよび治療規制

(薬物検査)

第1025条 日馬連が指定する競技会の主催者は、本規程およびJ-EADCMRの定めに従って、薬物検査を実施しなければならない。

(禁止物質リスト)

第1026条 日馬連競技会では、FEIが定める最新の禁止物質リストを適用する。

(馬管理責任者の責任)

第1027条 馬管理責任者は、競技会場内に注射器、注射針、禁止物質を持ち込んではいない。ただし、やむを得ない事情により、それらの治療器具や禁止物質を競技会場に携帯するとき、それらを入厩後速やかに獣医師団に預けなければならない。

2. 厩舎地区の保安管理状況に係わらず、馬管理責任者は、自らの管理責任と薬物検査の結果

に対する責任を免れることはできない。

(獣医師団の権限)

第 1028 条 オフィシャル獣医師および本規程第 1008 条により許可を受けた獣医師以外の者が注射器、注射針、禁止物質を所持していることが判明した場合、獣医師団長はそれらの器物や物質を没収する権限を持ち、その事実を速やかに上訴委員長に報告する。

(被検馬の選択)

第1029条 薬物検査における被検馬の選択は、原則として次の3つの方法またはそれらを組み合わせた方法とする。

- (1) メダリスト検査：上位から成績順
 - (2) ランダム検査：無作為な選択
 - (3) ターゲット検査：検査を必要とする理由がある馬
2. ターゲット検査では、獣医師団長と競技場審判団長の合議により、被検馬を指定する。また、必要に応じて同一馬に対し、複数回の検査を行うことができる。
3. 被検馬の頭数は、3頭以上とすることが望ましい。

(被検馬への通告)

第1030条 競技を指定して被検馬を選択する場合は、獣医師団長またはその代理人は被検馬の演技または走行終了後30分以内に当該馬管理責任者に対して、当該馬が検査対象に選ばれたことを通告しなければならない。上記に係わらず、ターゲット検査は、獣医師団長と競技場審判団長の協議により、競技会期間中のいつでも被検馬を選択・通告することができる。

(検査の義務事項)

- 第1031条 被検馬としての告知を受けた馬管理責任者は、担当の獣医師団またはスチュワードの監視下で、当該馬を速やかに検体採取馬房に収容しなければならない。
2. 被検馬の馬管理責任者は、検体採取馬房への馬の収容から検体の封緘までの検体採取過程に常時立ち会い、馬の管理と作業手順の監視を行わなければならない。
 3. 前項の定めに係わらず、被検馬の馬管理責任者は、検体採取の立会人として代理人を指名することができる。この場合、採取記録用紙の余白に馬管理責任者の自署を付して代理人の名前を記入しておかなければならない。
 4. 馬管理責任者またはその代理人は、検体採取に用いられた器具の正当性を認め、当該馬の検体採取作業に対して異議がないときは、検体採取後、所定の検体採取記録用紙に署名しなければならない。当該検体採取記録用紙への署名を拒否するときは、その理由を文書で明示しなければならない。
 5. 検体採取を担当する獣医師(以下、検体獣医師)は、検体の採取作業の拒否や妨害、所定の採取記録用紙への署名拒否があったときは、直ちに上訴委員長に報告しなければならない。
 6. 前項の報告を受けた上訴委員長が、その妨害または拒否を理由のないものと判断し馬管理責任者に通告してもなお、検体採取または署名を拒否した場合、上訴委員長は本規程およびJ-EADCMRに違反するものとして、日馬連裁定委員会へ付託する。

（検体獣医師）

第1032条 検体獣医師は、検体採取に先立ち、乗馬登録証またはFEIパスポートと照合して被検馬の個体識別を実施しなければならない。

2. 主催者は、獣医師団長の指示に基づき、検体獣医師の補助者として必要な人員を配備しなければならない。

（検体の採取）

第1033条 検体獣医師は、採取した検体が汚染しないように作業、管理しなければならない。

2. 検体獣医師は、原則として尿を、1時間が経過しても尿が十分量採取できない場合は血液を、被検馬から採取しなければならない。

3. 検体獣医師は、尿と血液以外にも、状況に応じて被毛、肢巻き、皮膚を拭き取った綿布、唾液、補液剤あるいは当該馬に関連すると考えられる携帯物や物質を採取することができる。

4. 検体採取は、FEI公認の検体採取キットを使用し、FEIが定める検体採取手順に則って行われなければならない。

（指定検査機関）

第1034条 検体の分析は、日馬連が指定する検査機関に委託して実施する。

（検体の発送）

第1035条 薬物検査を実施する競技会の開催前に、日馬連は分析検査を委託する検査機関に対して通知する。

2. 採取された検体は、競技会終了後24時間以内に搬送業者に委託して検査機関に発送する。

3. 検体獣医師は、採取から発送まで、検体の保安管理に責任を負う。

（自主的任意検査）

第 1036 条 馬管理責任者あるいはその代理人は、J-EADCMR 違反防止のために、日馬連が指定する検査所に委託して自主的任意検査を受検することができる。ただし、その結果は、日馬連が行う正規の検査結果への反証とはならない。

2. 自主的任意検査は、日馬連指定検査所の指定する物質に関してのみ検査を依頼することができる。

3. 自主的任意検査を依頼する場合、申請者は所定の申請書にて、日馬連に申請する。

4. 申請者は、日馬連の指示に従って、自らの責任で、検体を採取し検査機関へ送付しなければならない。

5. 自主的任意検査の申請者は、その検査費用を自弁しなければならない。

6. FEI 指定検査所での検査を希望する場合は、FEI 規程に従う。

（選考補助検査）

第 1037 条 J-EADCMR 第 4 条 4 項に規定する選考補助検査については、本規程を適用しない。

(知覚制御処置の規制)

第1038条 四肢または四肢の一部の知覚を一時的または恒久的に鈍磨あるいは過敏にする処置を施された馬は、日馬連競技会に参加することはできない。

2. 前項の知覚制御処置の有無を確認するために、獣医師団は、FEIが定める検査方法に準じて、知覚制御処置を確認する検査を実施することができる。
3. 知覚制御処置の検査は、獣医師団長と競技場審判団長の協議のうえで、獣医師団およびスチュワードが実施する。
4. 刺激処置、皮膚の損傷あるいは蹄冠部の知覚過敏処置の有無を判断するための触診検査を含む四肢の知覚制御処置確認検査は獣医師団が実施する。処置が疑われる馬体部位および薬物の使用が疑われる馬装具については、スチュワードが触れることはできない。

(違反が疑われたときの対応)

第1039条 知覚制御処置確認検査の結果、疑わしい馬装具あるいは知覚過敏処置の可能性が示唆された場合、獣医師団長は直ちに競技場審判団長に報告する。

2. 違反が疑われたときは、当該事例の確認のため、獣医師団が当該馬の皮膚を拭き採った綿布、肢巻き、テープなどの一部をFEI公認の送付用サンプリングキットに収納し、日馬連が指定する検査機関に送付して分析する。

第Ⅶ章 競技期間中の馬の治療

(治療の規制)

第1040条 競技に参加する馬は、ドーピング物質および治療用物質の影響下にあってはならず、その責任は馬管理責任者にある。

2. 獣医師団長は、馬管理責任者または獣医師から治療の申請または報告があったときは、馬のウェルフェアを最優先して治療の是非を検討し、治療を許可したときも、当該馬の競技参加適性について獣医学的な見地から評価判定しなければならない。
3. 薬物検査が義務付けられた日馬連競技会では、治療を受けた馬が競技に参加した場合、原則として当該馬を薬物検査の対象とする。

(禁止物質による治療)

第1041条 日馬連競技会期間中において禁止物質を用いた治療が必要な場合、治療を担当する獣医師は当該馬の競技参加適性を極力考慮した治療法を検討しなければならない。

2. 治療を担当する獣医師は、様式第1号（禁止物質治療許可申請書）に治療計画を記入し、獣医師団長に提出しなければならない。
3. 獣医師団長は、前項の申請書の提出を受けた場合、FEI馬の禁止物質リストに掲載された物質や方法を用いる治療では、原則として当該馬の競技参加を取りやめることを前提に治療許可を与える旨を、馬管理責任者および治療を担当する獣医師に通知する。
4. 馬管理責任者または治療を担当する獣医師は、当該申請書の提出と上記の一連の手続き処理を、原則として馬を治療する前に行わなければならない。

5. 前項の定めに係わらず、競技会場への入厩から遡って10日前までに禁止物質を用いた治療を行った場合、または禁止物質を用いたことが疑われる場合、当該馬管理責任者は、当該馬が競技会場に到着後速やかに、治療を担当した獣医師により投与薬物、使用量、投与時期、投与方法、治療の理由が明記され、署名された報告書を添え、様式第1号（禁止物質治療許可申請書）を提出して、当該馬の競技参加適性について獣医師団長の判断を求めなければならない。

6. 獣医師団長は、様式第1号（禁止物質治療許可申請書）の提出を受けたときは、治療してから競技までの経過時間を考慮し、治療により当該馬が不当な利益を得る可能性を検討して競技参加の可否を決定し、競技場審判団長はこれに副署する。

7. 当該馬が治療前に競技参加を取りやめた場合でも、競技会場に滞在している限りは、治療を担当する獣医師は治療前に当該申請書を提出し、獣医師団長の許可を得なければならない。この場合は、当該申請書には競技場審判団長の副署を必要としない。

（発情抑制剤投与）

第1042条 過剰な発情行動を呈する牝馬に対する発情抑制剤は、製造元の指示する投薬量および治療期間での使用に限り許可される。

2. 前項に基づいて発情抑制剤を用いた馬管理責任者または治療担当獣医師は、競技出場前に、様式第2号（牝馬発情抑制剤投与申請書）を用いて獣医師団長に届け出なければならない。当該申請書には競技場審判団長の副署を必要としない。

（禁止物質リスト以外の物質投与）

第1043条 日馬連競技会の期間中、馬管理責任者または治療を担当する獣医師は、禁止物質リストに記載された物質以外の補液剤、ビタミン剤、抗生物質、駆虫薬等を投与する場合、所定の様式により、治療の概要を獣医師団長に報告しなければならない。競技への参加適性に疑問があるときは治療前に獣医師団長に報告しなければならない。

2. 前項の治療概要報告書は、治療の当日または翌朝までに獣医師団長に提出しなければならない。

3. 日馬連競技会の期間中、注射や胃または経鼻カテーテルあるいは噴霧器吸引による投与は、入場届けを提出し許可を受けた獣医師以外が行ってはならない。

4. 競技期間中の注射による関節内投与は禁止する。

5. 噴霧器を用いた生理食塩水の投与および鼻腔の一つを介した挿管チューブによる酸素吸入は認めるが、マスクを利用したその他の物質の吸入療法は禁止する。

6. 競技会期間中および競技前5日以内のオゾン療法は禁止する。

（特殊理学療法等の実施）

第1044条 競技会期間中の特殊理学療法は、獣医師団長の許可を得た獣医師のみが実施できる。

2. 禁止物質を併用する針灸治療や理学治療は禁止する。

3. 競技会期間中および競技前5日以内のショックウェーブ療法および低温療法は禁止する。ただし、氷を用いた冷却は認められる。

(安楽死および馬の死亡への対応)

第1045条 日馬連競技会期間中に馬が重篤な傷病に罹患し、安楽死処置が必要となった場合の対応は以下のとおりとする。

- (1) 当該馬のチーム獣医師あるいは個人委託獣医師が処置を行うときは、事前・事後に係わらず、当該馬管理責任者あるいはその代理人は馬安楽死届を獣医師団長に提出しなければならない。
 - (2) 獣医師団長または救護獣医師によって安楽死が適切と判断され、それを馬管理責任者またはその代理人が承諾し、その処置を救護獣医師に依頼するときは、馬安楽死承諾・依頼書を競技委員長に提出しなければならない。
2. 馬が死亡または安楽死処置を施されたときは、獣医師団長が死亡診断書を作成する。

第八章 競技場の施設整備および管理

(獣医関連施設設備)

第1046条 獣医業務およびそれに関連する業務を行うために、主催者は以下の施設、器材を整備しなければならない。

- (1) 適切な獣医施設と隔離施設
- (2) 負傷した馬の周りに立てる遮蔽幕
- (3) 重篤な負傷馬または死亡した馬を競技場あるいはコースから搬出するための馬運車

(厩舎施設整備)

第1047条 厩舎施設は次のとおり整備されなければならない。

- (1) 厩舎地区の衛生、良質な飲料水の提供、清潔な馬糧および敷料の保管場所の提供に心掛け、馬糞と廃棄敷料の適切な廃棄場所を用意する。
- (2) 馬房は、原則として3m×3m以上の広さとする。
- (3) 薬物検査を行う競技会においては、少なくとも3頭分の静かな検体採取馬房と検体採取業務を遂行するためのテーブル等を準備する。

(厩舎の保安管理)

第1048条 厩舎地区は、観客等、許可のない者の立ち入りや厩舎地区外への放馬を防止するため、適切な仕切りで囲うものとする。

2. 厩舎地区への立ち入りは、原則として下記の者に限る。
- (1) 競技場審判団と上訴委員
 - (2) スチュワード
 - (3) オフィシャル獣医師
 - (4) 許可を得たチーム獣医師・個人委託獣医師
 - (5) 公設装蹄師
 - (6) 許可を得たチーム装蹄師・競技者個人の委託装蹄師
 - (7) 選手、馬管理責任者および所有者
 - (8) チーム監督と許可を得たトレーナーおよびグルーム

(9) 許可を得た馬輸送業者

(10) その他、競技委員長が認めた者

2. 前項に定めた者であって、競技会主催者から発行された入場許可証を有する者に限定して、当該厩舎地区への立ち入りを許可する。

3. グルーム等が夜間、馬に付き添うときは、馬管理責任者は主催者の許可を得なければならない。

附則 本規程は、平成 20 年 4 月 1 日から、当面は薬物検査が実施される競技会に適用する。その他の日馬連競技会においても本規程を準用するものとする。

附則 本規程は、平成 23 年 7 月 29 日から施行する。（「日馬連馬ドーピング防止および治療規制に関する規程」の制定に伴う所要の改正。）

附則 本規程は、平成 24 年 4 月 1 日から適用する。（獣医規程および同実施規則の統合に伴うもの等所要の改正。）

附則 本規程は、平成 25 年 4 月 25 日から適用する。（社団法人日本装蹄師会から公益社団法人日本装削蹄協会への名称変更に伴う改正。）

附則 本規程は、平成 26 年 4 月 1 日から適用する。（登録獣医師制度の廃止、競技会獣医師の各職務の定義の明確化等所要の改正）

附則 本規程は、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。（補則「エンデュランス競技におけるインスペクション」の追加。公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構の表現変更にとまなう「ドーピング防止」から「アンチ・ドーピング」への置き換え。）

附則 本規程は、平成 28 年 4 月 1 日から適用する。（インスペクション手順の一部改正）

附則 本規程は、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。（報告書の提出について一部改正）

附則 本規定は、平成 29 年 10 月 12 日から適用する。（オフィシャル獣医師の兼務に関する規定を改正）

本規程は、原則として、日馬連主催競技会および薬物検査が実施される競技会に適用する。その他の日馬連競技会においても本規程を準用するものとする。